

■大槻磐溪 儒者・砲術家。開国論を唱え反響を起すも、自らは維新に翻弄された。

おおつきばんけい

本居宣長没・1801= 江戸で、仙台藩主侍医で蘭学者の大槻玄沢の次男に生まれる。

・・・・・・1810= 9歳：

岡山藩儒井上四明に学んだ後、

杉田玄白没・1817=16歳：_林述斎に入門し、昌平黌に入学、

水野忠成老中1818=17歳：

群書類従刊・1819=18歳：素手伝詩文掛に命じられて俸金を下賜され、

この間、一度帰郷した際、磐井川の風景に感じ入って磐溪と号し、また、厳美溪に遊歴してきた松崎謙堂と出会い、以後師事、

日本外史・・1827=26歳：_昌平黌を辞し、東海・畿内を巡遊後、山陽の頼杏坪らの指導を受け、長崎に入り、蘭学を修めるつもりが、

シーボルト事件・1828=27歳：_シーボルト事件が発生し、帰府。

鼠小僧磔・・1832=31歳：学問精勤を認められて、仙台藩の大番組に召し出され、江戸での学問修業を命じられる。

大塩平八郎乱1837=36歳：

勲進帳初演・1840=39歳：*儒役代理を命じられ、藩主江戸邸での侍講となる。

天保改革始・1841=40歳：_長崎の旧友高島秋帆の徳丸原洋式訓練を見学、秋帆門下の大塚蜂郎に砲術を学び、藩士の訓練にあたる。

阿部正弘首座1845=44歳：

ビッドル来航・1846=45歳：

・・・・・・1848=47歳：漢詩文「寧静閣集」刊行始まる。

北斎没・・1849=48歳：英国艦隊来航の風聞に「猷芹微衷」を上書、ロシアと結び、対抗を提言、

尊徳報徳論・1851=50歳：_西洋砲術稽古人を命じられて、佐久間象山と親交、

ペリー来航・1853=52歳：*米艦隊来日に際して、藩命で浦賀に赴き、幕府に親露策の開国論を建言する。

安政大地震・1855=54歳：_藩主から西洋砲術修業を命じられ、江川垣庵に入門、

蕃書調所・・1857=56歳：_免許皆伝となる。

五ヶ国条約・1858=57歳：漢詩文「寧静閣集」刊行終わる。

桜田門外変・1860=59歳：

生麦事件・・1862=61歳：_藩命で仙台に帰り、近習兼養賢堂学頭副役となり、

禁門の変・・1864=63歳：「近古史談」刊行。

薩摩藩士密航1865=64歳：大槻習斎が死去したため、*第6代学頭となるも、

薩長同盟・・1866=65歳：_病氣となり致仕したが、

明治維新・・1868=67歳：*戊申戦争になると、藩政の謀議に参画し、奥羽同盟の盟主となった仙台藩の軍事文書を作成したため、敗戦後、下獄。

廃藩置県・・1871=70歳：恩赦にあうも、亡国の遺臣として本郷に隠棲、

明治6年政変 1873=72歳：

三つの内乱・1876=75歳：_この年、陸軍軍楽隊が大槻磐溪邸で初の出張演奏するなど、文酒談謙、優游自適の生活を送って、

大久保暗殺・1878=77歳：_没した。

「合衆国小誌」「鴻漸斎詩鈔」「三体詩絶句解」「国史百詠」「新選十二家絶句」などが刊。ほかに「西游紀程」「松島奇賞」。

「人づくり風土記(岩手)」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、